

報道関係者の皆様へ

2007年11月吉日

変わらない心と、あたらしい心

和菓子とともに、日本の魅力を伝える

とらや東京ミッドタウン店ギャラリー 第4回企画展

寿ぎのかたち展

〈2007年11月16日～2008年1月15日〉

とらや東京ミッドタウン店では、初めての新年を迎えるにあたり「^{ことほ}寿ぎのかたち」展を開催いたします。
和紙で包み、水引で結ぶ。日本の奥ゆかしく美しい^{おりがた}寿ぎのかたちを、「折形」と「^{みずひき}水引」でご紹介します。
展示を通して、あらためて「包み」や「結び」の意味や、美しさを再認識していただければと思います。

◎ 「折形」

「折形」で身近なものといえば、お祝いを包む金封。紙を美しく折り上げた折形を用いたものが多くあります。金封につけられた「のし」も折形による表現です。

贈答のさいに進物を和紙で包む「包みの礼法」が「折形」です。室町時代には武家の礼法として確立していたことがうかがえる記録もあるという伝統的なものです。贈り物はむき出しにせず、清浄な白い和紙を使って折形で包んで贈るといふ、「かたち」に「こころ」を託す日本の美しい習わしの一つです。

◎ 「水引」

進物や金封に美しく結ばれた水引。その歴史は詳らかではありません。遣隋使が帰国時に、贈り物に紅白の麻紐を結んだり、平安時代の宮中で、紅白の麻紐で献上品を結んだという伝説があります。江戸時代には、進物や献上品を水引で結ぶ風習が広まっていたようで、とらやの御用記録にも「金銀水引」などの記述が見られます。結びの形も折形同様、様々に考案され、かつては教養の一つとされていたようです。包む物や贈る相手によって色や形を使い分けるといったことは、現代の「蝶結び」「結び切り」などの使い分けにも生きています。

◎ とらやオリジナル「ぼち袋」、「祝箸」を販売

とらやの和三盆糖製干菓子『五色糸』は5種の伝統的な「結び」の形を意匠としたお菓子です。この意匠を飯田の田中七郎商店の水引職人が結び、美濃の手漉職人が漉いた和紙の折形に添えた「ぼち袋」を、折形デザイン研究所にご協力いただいてご用意いたしました。また、同様に松竹梅を水引で結び、和紙の折形に添えた新春にふさわしい祝箸もご用意いたしました。

◎ ワークショップ開催

お菓子と折形のお話を交えながら、和紙を折り水引を結ぶという祝儀袋が完成するまでを体験していただけます。〈12月11日(火)、14日(木)、20日(木)の予定〉

<展示情報>

場 所： とらや東京ミッドタウン店内 ギャラリー
会 期： 2007年11月16日(金)～2008年1月15日(火)
時 間： 11:00～21:00 (店舗営業時間と同じ) ※無休(東京ミッドタウン休業日に準じます)

